

佐伯啓思『経済学の犯罪』講談社現代新書 2012年

1. 目次

- 第1章 失われた二〇年 -構造改革はなぜ失敗したのか-
 - 第2章 グローバル資本主義の危機 -リーマンショックから EU 危機へ-
 - 第3章 変容する資本主義 -リスクを管理できない金融経済-
 - 第4章 「経済学」の犯罪 -グローバル危機をもたらした市場中心主義-
 - 第5章 アダム・スミスを再考する -市場主義の源流にあるもの-
 - 第6章 「国力」をめぐる経済学の争い -金融グローバリズムをめぐる-
 - 第7章 ケインズ経済学の真の意味 -「貨幣の経済学」へ向けて
 - 第8章 「貨幣」という過剰なるもの -「希少性の経済」から「過剰性の経済」へ-
 - 第9章 「脱成長主義」へ向けて -現代文明の転換の試み
- あとがき -ひとつの回想-

2. 著者紹介

佐伯 啓思(さえき けいし)

1949年12月奈良県奈良市生まれ、東京大学経済学部卒

専攻は社会経済学、社会思想史。

広島修道大学商学部講師、滋賀大学経済学部助教授、同教授を経て、1993年から京都大学大学院人間・環境学研究科教授。2015年定年退任後名誉教授に。

主な著書

- 『自由とは何か』(講談社現代新書)、
- 『日本という「価値」』(NTT出版)、
- 『現代文明論講義ニヒリズムをめぐる京大生との対話』(ちくま新書)、
- 『西欧近代を問い直す』『20世紀とは何だったのか』(ともに PHP 文庫) など。

3. 選定理由

- ・ グローバル資本主義を考える
- ・ リーマンショックや EU 危機の原因を考える
- ・ 構造改革が失敗した原因について考える
- ・ 経済学とはどんなものか
- ・ 経済学のもたらした影響を学ぶ
- ・ 経済学と経済の関係性を考える
- ・ 雇用不安を考える
- ・ 今後の社会を考える
- ・ 資本主義経済、市場主義経済を見直す